

# なぎさ通信

葛西臨海水族園 周辺の海から

第30号  
April 2009

## プルプルゼリーの正体は？

葛西臨海水族園では、目の前に広がる人工干潟「西なぎさ」で地曳き網を曳いて、生物の調査をおこなっています。ある日網を上げると、たくさんの魚…ではなく、なにやらプルプルした透明のゼリーのようなものがたくさん入っていました。海にいるゼリーのようなものといえば、アレしかない！と、水の中に入れてみると、思った通り、その正体は「カブトクラゲ」という生物でした。

カブトクラゲの体表には、くし板と呼ばれる小さい板状のものが8列に並んでおり、そこに光が当たると、とても美しく輝いて見えます。このくし板を順番に動かして、輝きながらゆっくりと泳ぐのです。

クラゲといえば、刺胞という毒針を持つものがほとんどで、刺胞動物と呼ばれています。しかし、カブトクラゲは名前に「クラゲ」とつきますが、有櫛動物に属し、刺胞はありません。刺胞動物とは全く別の生物なのです。ちょっとややこしいですね。

例えば、ミズクラゲは刺胞動物の仲間です。触手には刺胞があり、餌となるプランクトンが触手に触れると、毒針が発射され、マヒして捕まってしまう（ミズク

ラゲの毒は弱く、人間にはほとんど影響ありません）。一方、有櫛動物のカブトクラゲには毒はありませんが、体が粘液でベトベトなので、餌となるプランクトンをくっつけて捕まえます。

こんなきれいなクラゲは、ぜひ皆様に見ていただきたいと思いました。しかし、カブトクラゲはとても弱く、網ですくって少しでも体を傷つけてしまうと、そこから形が崩れてバラバラになってしまいます。水の中にいるカブトクラゲを見つけ（透明だからなかなか見つからない!）、水ごとそっとすくって、水族園に持ち帰りました。現在、「東京の海」エリアの特設水槽で期間限定展示をしています。

「西なぎさ」でゼリーのようなものが砂浜に打ちあがっていたら、それはきっとクラゲの仲間でしょう。しかし、アカクラゲなど毒の強いクラゲの場合もあるので、触らずに観察してくださいね。（飼育展示係 鈴木聡子）



## 西なぎさ生き物観察ノート⑩ 春なのにアキアミ

サクラは、日本人の大好きな花ですね。その花の色に似ていることや、開花時期と漁期とが重なる事から名がついたサクラエビも、我々が好んで口にする食材の一つではないでしょうか。

「西なぎさ」にも、サクラエビ科の仲間がいます。その名もアキアミ。イサザアミなどアミ類は、エビに似ていてもちょっと違うグループに属する生き物。でもアキアミは、名前はアミでも実はエビの仲間と、少し複雑です。

3月10日、「西なぎさ」で地曳網調査をおこなったところ、大量のニホンイサザアミにまじって、ちょっと変わった動きをする透明なエビがいたのですくい上げると、

アキアミでした。

このアキアミ、産卵がピークになる秋に多く採れることからその名がついていますが、冬を越して初夏に産卵を行うグループもいるのです。今回見つけたのは、その越年世代と呼ばれるグループで、春先から7月くらいにかけて観察されます。越年世代は秋を待たずにおよそ10ヶ月の寿命を終え、夏世代へと世代交代していきます。

生での流通が少ないアキアミですが、皆さんも知らずに口にすることがあるかもしれません。サクラエビと同様にかき揚げや佃煮にするほか、塩辛にしたものをキムチの味付けに利用したり、お好み焼きに入れたり、ちりめんじゃこ



の中に混じってることもあるそうです。

アキアミは、自分の体の2倍もある長〜い折れ曲がった触角を持つので、泳ぎ方がフワフワしていて、尾には花びら形の赤い斑点がついています。じっくり見ていると、その姿はまるで春の妖精のよう。長い冬を超えて「西なぎさ」に咲くかわいいアキアミ、サクラの季節が終わっても観察できますので、ぜひ探してみてください。

（調査係 堀田桃子）

## なぎさの小さなサカナ便り⑬ 地曳網でアユが捕れました

2月～3月にかけて、葛西臨海水族園では「西なぎさ」でアユの稚魚の採集を行ないました。アユは秋に川で産まれたあと海に下り、冬の間は海で過ごします。海で育ったアユの稚魚は、春に川を登りますが、その前に河口付近にいったん集まって、淡水に適應していきます。そのため、この時期の「西なぎさ」にも、子供のアユがたくさんいるのです。

今回は、地曳網を使って、採集を行ないました。地曳網といっても、何十人で曳く観光用の大型のものではなく、大人が2人で引



強風で網が吹き上げられることも

張ることができる小型のものです。水族園のスタッフ2名が胴まで長靴をはいて海に入り、沖の方から岸の方にむかって網を引っ張ってきて、網の一番後ろに入っているアユを掬い上げます。注意しないと、アカエイを踏んでしまって尾のトゲで刺されたり、強風で水面上に網を吹き上げられることもあります。また、子供のアユはとてもデリケートで、手荒く扱うとすぐ死んでしまいます。そのため、地曳網から運搬用のバケツに移す時には、とても慎重に取り扱いました。

今回は合計5日間採集を行ない、400匹程のアユを捕ることができました。捕れる数は日によって違い、わずか4～5匹の日もあれば、一度に300匹以上の大量のアユが捕れる日もあります。おなじ「西なぎさ」でも、当日の潮の流れや風向きなどによって、アユが集まっている場所



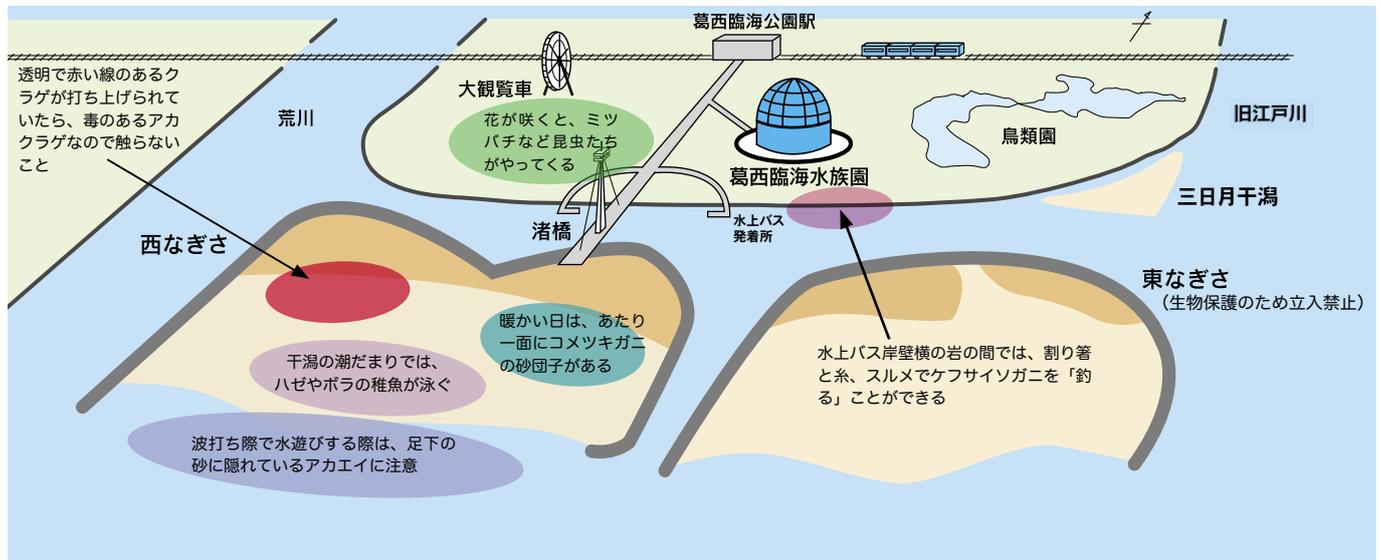
体が透明なアユの稚魚

が異なるのだと思います。

捕れたアユの大きさは、全長が約3～7cmでした。3～4cmの小さいものは全身が無色透明で、まるでシラオオの様に見えますが、5cm以上に成長したものは、体にアユらしい色もつき始めて、大人とほぼ同じような姿形をしています。これらのアユ達は、水族園内「東京の海」エリアの2階にある水槽にて現在展示中です。

(調査係 小野瀬拓也)

## 春の水族園周辺生き物マップ



### ●●●春の西なぎさ●●●

「西なぎさ」で海の生き物がいちばんにぎやかなのは、4月中旬から6月頃です。真夏は、あまりに高温になるので、それに耐えられる生物しか見られません。これからの季節、干潟の砂の上ではコムツキガニが砂団子を作ったり、ハサミを振り上げて求愛ダンスを踊ったりしています。4月29日と5月4日の10:30～13:30には、水族園スタッフが「西なぎさ」で生物を解説する「西なぎさ移動水族館」をおこないます。どうぞおいでください。

編集後記：先日、園内の通路でこの春はじめてのゴミゲソを見つけました。ジョロウゲソとは違って、成体で越冬するケソです。2月～3月には園内を移動するアズマヒキガエルも大勢いましたし、アブラコウモリも冬眠がら覚める頃です。生き物たちがにぎやかな季節がやってきました。